

論 文

臨地・臨床実習における欠席状況と学業成績・生活背景の考察

天池千嘉子, 本間和代, 江川広子, 平澤明美, 渡邊美幸, 計良倫子, 木口友美
明倫短期大学 歯科衛生士学科

The Consideration of School Absence, Academic Performance, and Students' Life in Field and Clinical Training

Chikako Amaike, Kazuyo Honma, Hiroko Egawa, Akemi Hirasawa, Miyuki Watanabe, Tomoko Kera,
Tomomi Kiguchi
Department of Dental Hygiene and Welfare, Meirin College

歯科衛生士養成過程において、臨地・臨床実習の意義は大きく、入学以来習得した基礎知識・技術の上には、その目的を達成しなければならない。本実習は「臨地・臨床実習Ⅰ（２年後期）」および「臨地・臨床実習Ⅱ（３年前期）」として実施され成績評価を行っている。本研究は「臨地・臨床実習Ⅱ」の期間中の欠席状況、欠席コマ数および欠席理由、居住形態等を調査し学業成績との関係を見た。その結果、欠席数が多くなるほど体調不良よりも精神面の疲労による欠席理由が大きく占めた。また、居住形態の違いによる欠席数ではアパート生が寮生、および自宅通学生を大きく上回り、学業成績との関係では欠席数が多いほど学業成績の順位も低くなった。

キーワード：臨地・臨床実習、欠席状況、生活背景、学業成績

Keywords: Field and Clinical Training, Absence Situation, Life Background, Academic Records

I. 緒 言

大学生は学校の規則や親の監視下におかれた高校時代に比べ、アルバイトや交遊関係など学外の活動で社会性が大きく広がる時期となる。この時期は生活習慣に変化が起こりやすく、一般に大学生の授業の出席を妨げる要因、欠席を促す要因として基本的な生活習慣と関連が深いことが実証されている¹⁾。また、大学生を対象とした生活習慣と健康状態に関する調査では、望ましい生活習慣を持つ学生は健康状態が良く、欠席日数が少ないと報告されている²⁾。本学でも臨地・臨床実習における欠席理由として体調不良が多くみられるが、その背景には生活習慣が影響しているのではないかと考えた。そこで、学生の臨地・臨床実習の欠席に影響を及ぼす要因を、生活習慣や学業成績との関連から調査した。

II. 対象および方法

対象は本学歯科衛生士学科３年生女子58名（平均年齢 20 ± 0 歳）とした。調査は平成25年度臨地・臨床実習Ⅱの期間の96日間（平成25年4月17日～25年9月26日）について調査した。欠席状況は欠席コマ数（以下、欠席数とする）を本学イントラネット学生出席管理システムよりカウントした。90分（2限）を1コマとし1日欠席すると4コマとして算出した。生活背景については居住形態、アルバイト、余暇の過ごし方、実習の欠席理由について自記式記名によるアンケートを実習終了後の10月に実施した。学業成績については2年次総合成績の順位を用いた。

III. 結 果

1. 欠席状況と学業成績の関係

全体の欠席状況（欠席数別人数）と学業成績の関

係を図1に示す。総コマ数384コマ中、1人平均欠席数は10.4コマで、1～8コマ群が最も多く18名(31%)となった。欠席なし群は13名(22%)で、最多欠席者は56コマであった。全体の欠席理由としては体調不良が53%、精神的疲労が30%、冠婚葬祭が4%、その他(寝過ごし、さぼり)が13%となった。さらに欠席数と欠席理由の関係を図2に示す。これより欠席数が多い群では実習先での精神的疲労、その他(寝過ごし、さぼり)が50%を占めた。

学業成績においては欠席数が多くなるほど、各欠席群の学業成績の順位が低くなった。

2. 居住形態と欠席状況の関係

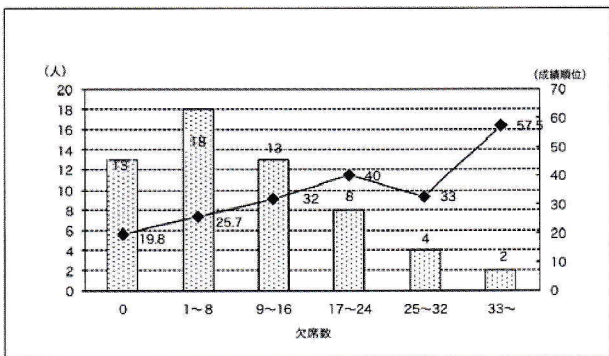


図1. 欠席数別人数と成績 (n=58)

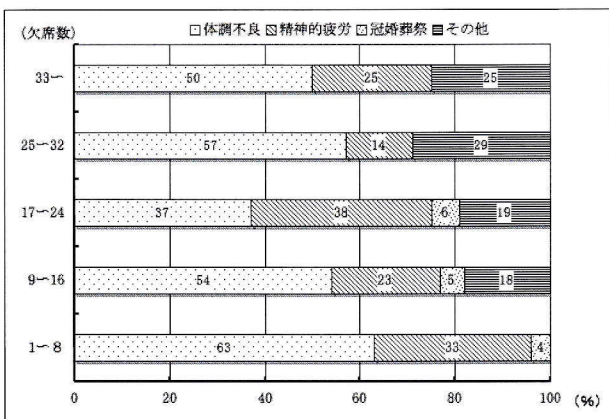


図2. 欠席数別欠席理由 (n=58)

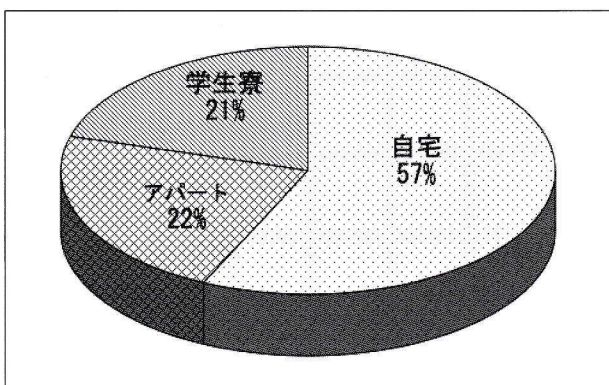


図3. 学生の居住形態 (n=58)

居住形態は図3のとおり、自宅が57%、アパートが22%、学生寮が21%である。居住形態別平均欠席数は図4に示すとおり、自宅通学生が10.3コマ、アパート生が16.5コマ、寮生が4.3コマとなった。また、寮生13人中5名(42%)が欠席なし群に属し、居住形態により欠席数に影響がみられた。

3. アルバイトと欠席状況の関係

実習期間中のアルバイトの実施状況は図5に示す

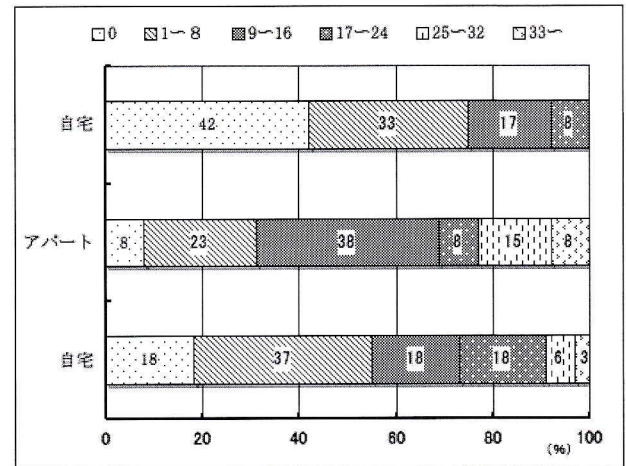


図4. 居住形態と欠席数の関係 (n=58)

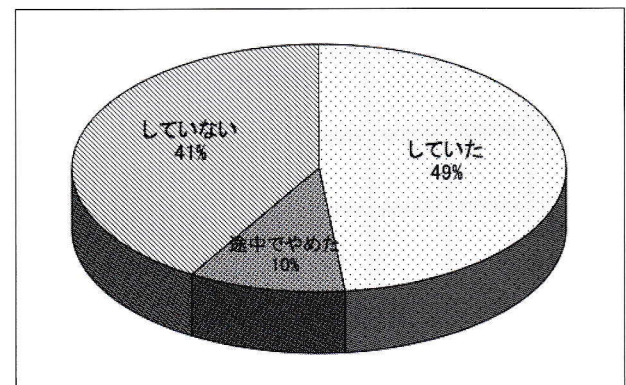


図5. 学生のアルバイト状況 (n=58)

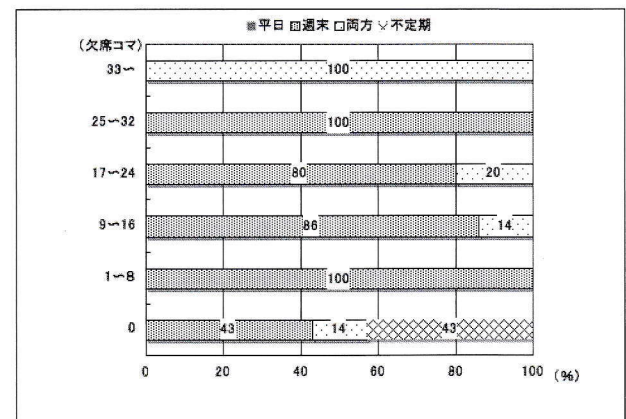


図6. アルバイト勤務形態 (平日・土日等) と欠席数の関係 (n=58)

とおり、「していた」と回答した者が28人(49%)、「途中で辞めた」者が6人(10%)、「していない」者が24人(41%)であった。さらにアルバイトの有無と欠席数の関係を図6に示した。欠席数33以上の者においてはアルバイトが大きく影響しているが、それ以外、大きな差はみられなかった。

アルバイト勤務形態と欠席数の関係を図6に示す。欠席数の少ない群では週末のみに不定期に勤務していたが、33コマ以上の群では週末と平日の両方勤務していた。

また、アルバイトは臨地・臨床実習にどのように影響したかの質問には「リフレッシュできた」、「実習の負担にならないよう働いた」など、妨げになっていないという回答があったが、欠席数の多い群では「疲れがたまり、やや妨げになった」との回答もあった。

IV. 考 察

1. 欠席状況と学業成績

欠席数が多い群では学業成績も低く、欠席理由では、精神的疲労、寝過ごし、さぼりが50%と多かった。これらの学生は講義・実習に対する理解や意欲が低く、安易に欠席する傾向がみられた。

2. 居住形態と欠席状況

居住形態による欠席数の平均はアパート生が16.5コマの最多で、自宅生が10.3コマ、寮生が4.3コマと続いた。アパート生が16.5コマと多かったのは、家族や友人に干渉されることなく自由に行動できる一方、生活が不規則になり体調不良や寝過ごしなど自己管理に問題があったと考えられる。一方、寮生は集団生活を通して規則正しい生活を送れることや、食事や入浴の準備・後始末などの心配がないことで

欠席が少なかったと考えられる。

3. アルバイトと欠席状況

欠席数のどの群においてもアルバイトの有無に差はみられなかったが、勤務形態の違いに差があった。欠席数の少ない群はアルバイトを息抜きととらえ、週末のみ実施していたのに対し、多い群は平日も働いて、肉体的・精神的にも疲労が蓄積し、実習に影響したと考えられる。これにより、アルバイトの有無よりも曜日等の働き方が欠席状況に影響したと考えられる。

V. 結 論

歯科衛生士学科3年生を対象に「臨地・臨床実習の欠席に影響を及ぼす要因」について調査した結果、次の結論を得た。

1. 臨地・臨床実習において欠席数が多い群の欠席理由は、本人の精神的疲労であった。
2. 最も欠席数が多かったのはアパート生であった。
3. アルバイトは、実施の有無よりも働き方が、欠席する要因に繋がった。

文 献

- 1) 関田一彦, 井上比呂子, 清水強志: 学生の出席・欠席に関する意識調査. 創価大学教育学部論集第53号: 53-63, 2002
- 2) 長弘千恵, 趙留香, 馬場みちえほか: 看護大学生の生活習慣と主観的健康状態に関する日韓比較. 九州大学医療技術短期大学部紀要28: 27-38, 2001
- 3) 合掌かおり: 歯科衛生士科学生の生活習慣と学業成績の関連. 日衛学誌 8-1: 173, 2013